



- 主要諸元：(Z／ガソリン4WD)
- 全長×全幅×全高／4,995×1,850×1,935mm
 - ホイールベース／3,000mm
 - トレッド／前：1,600mm 後：1,600mm
 - 車両重量／2,120kg
 - 最小回転半径／5.9m
 - エンジン／2,493cc DOHC直列4気筒
 - 最高出力／182ps：6,000rpm
 - 最大トルク／24.0kgf・m：4,100rpm
 - WLTCモード燃費／10.3km／ℓ
 - ミッション／Super CVT-i(自動無段変速機)
 - ブレーキ／前／ベンチレーテッド・ディスク 後／ベンチレーテッド・ディスク
 - タイヤサイズ／225/60R18
 - 駆動方式／4WD
 - 乗車定員／7名
 - 車両本体価格(札幌地区)／5,629,900円(税込)



高級ミニバンの代名詞 満を持してフルモデルチェンジ TOYOTA ALPHARD

■テキスト＝横山 聡史 (Lucky Wagon) ■Photo＝川村 敷(川村写真事務所)
■取材協力＝札幌トヨタ自動車 月寒支店 Tel.(011)851-6121

プロフィール ――驚嘆に値する進化――

幅広い人気を誇るトヨタの最上級ミニバン、アルファード／ヴェルファイアがフルモデルチェンジを受け、6月より販売開始された。先代(三代

この造形がボディに引き締まった陰影を与え、周囲の光を美しく反射する。先代でも見られたラインだが、シャープさを増したことで精悍かつ引き締まった印象となった。押し出しの強いフロントグリルも精悍さを増し、リアコンビネーションランプはその造形と呼応するように格子状に光る。またブラックアウトされたBピラーの下端にはエンブレムが配置された。あたかも「2列目3列目のくつろぎ空間へようこそ」とゲストを誘うかのように。ドアノブのワンタッチシーソースイッチを押すとスライドドアは一旦わずかにクローズ方向へ動いた後、とても静かに開く。そのスムーズな動きと静粛性は、もう一度開閉して確かめたいくなるほど。この滑らかな動きは日本文化である襖あるいは障子を開ける所作を参考に行っているとのこと。高級であると同時に、ゲストに対するおもてなしの心が息づいているのだ。メーカーオプションのユニバーサルステップを追加すれば、完璧に近い乗降性を実現できる。

2列目シートに乗り込んでみると、足元にも頭上にもゆとりの空間が広がり、もはや応接室あるいはリビングルームといった印象。電動でオートマンとリクライニングを操作できるエグゼクティブパワーシート、シート間に格納されているテーブル。天井を見上げればトヨタ初のスーパーロングオーバーヘッドコンソールと、その両脇にムーンルーフ。左右独立した電動シェードも備わっている。さらに左右のスライドドアガラスリアクォーターガラスにはトヨタ初、後席用パワーサイドサンシェードが用意された。しかもスイッチを押すとサンシェードが上から降りてくる。陽光は頭上から降り注ぐのだから「遮光したいが景色は見たい」というニーズに応える素晴らしい発想である。

ただし、決してゲストをもてなすためだけではないのが新型のすごいところ。ドライバーのための快適性・安全性も抜かりなく磨き上げられている。表示をカスタマイズできる12.3インチ

目)と比べてボディサイズに大きな変更は見られないものの、徹底的に磨き上げられた「おもてなし」機能や洗練された内外装を備え、早くも大注目の的となっている。

初代アルファードの登場は'02年に遡る。2.4L直列4気筒ガソリンとハイブリッド、3.0LV型6気筒のパワートレイン。リモコン開閉可能なパワーウィンドウに代表される利便性の高い装備を持ち、一気に人気を集めた。'08年に二代目へフルモデルチェンジ。3.5LのV6エンジンが加わったほか、姉妹車であるヴェルファイアが誕生する。この世代では上級仕様のキャプテンシート(エグゼクティブパワーシート)のような高級装備や、駐車空間検出機能付インテリジェントパーキングアシストをはじめとする安全装備の充実が図られ、高級感が向上した。'15年には三代目へと進化するが「大空間高級サルーン」を開発テーマとし、「高級車」のひとつとして磨き上げられたことで、高級ミニバンたる格と人気は定着することになる。

三代目の登場から実に8年。満を持して登場した四代目は高級ミニバン路線をより磨くとともに「おもてなしの心」「居心地の良さ」といった分かりやすいテーマを具現化した機能を用意する。外観デザインはコンセプトこそ先代の延長線上にあるが、ディテールはかなり作りこまれており、完全なる新型。そして快適性を追求した各種装備は驚嘆に値する進化をみせている。

ゲストとドライバー、双方を満足させる快適性

注目すべき点は多々ある。まずは外観から見えていくと、先代で培われた高級車たる風格を生かし、さらに作り込んでいる。例えばどの角度から見ても分かるサイドのプレスライン。ヘッドライト端からラインが始まり、フロントドアで複雑な広がりを見せ、スライドドア・リアエンドへと続く。

TFTカラーメーターとマルチインフォメーションディスプレイ、コネクテッド対応、14インチの巨大なディスプレイオーディオなど、ドライバーの眼前に広がるのはトヨタが持てる技術の粋を集めた先進的なコクピット。乗り込むたびに「高級車に乗っているんだな」ということを感じさせてくれる。

国産ミニバンの最高峰

ラインナップはシンプルで、頂点に君臨するExecutive LoungeとZの2グレード。前者はハイブリッドのみで、Zにはハイブリッドとガソリンが用意される。各々にFFと4WDがあり、Executive Loungeの場合はE-Fourとなる。2.5Lハイブリッドはエンジン+モーターのシステム最大出力が250PSまで高められ、Executive Lounge E-FourのWLTC燃費(各モード総合値)で17.5km/Lを実現。今回試乗させていただいたガソリンエンジンは182PS/24.0kgf・mの最高出力/最大トルクを発生する。同じ2.5Lエンジンながら、ハイブリッドにはロングストローク、ガソリン車にはほぼスクエアストロークのエンジンが搭載されている点が興味深い。

ところで今回ヴェルファイアも同時に新型となったが、こちらのガソリン車は2.4レインタークーラー付きターボモデル。ヴェルファイアはそもそも販売チャネルの違いを考慮し、アルファードから派生したクルマだが、今回明確に異なる方向性が与えられた。おもてなし溢れる高級車アルファードと、よりスポーティなヴェルファイア。イメージカラーもアルファードのプレシャスレオフロンドに対しヴェルファイアはブラックで、走りも楽しみたいという方には、279PS/43.8kgf・mの最高出力/最大トルクを誇るヴ

ディーラーメッセージ

札幌トヨタ自動車 月寒支店
新車課

東間 登さん

発売開始されて以来、たくさんのお客様にご来店いただき、アルファード／ヴェルファイアの魅力を体験していただいております。高級感あふれる外観、おもてなしの心から生まれた各種装備・機能、ゆとりとくつろぎに満ちた室内空間。どこ

を見て国内最高峰のミニバンにふさわしい完成度となっています。

トヨタ自慢の予防安全パッケージToyota Safety Senseもフル搭載され、様々な走行シーンにおいてドライバーをサポート。乗員の安全を守ってくれます。ご家族にとっては「動くリビングルーム」として、法人や団体のお客様にとっては「動く応接室」として、トヨタ最新の高級ミニバンは、多くの可能性を秘めていると思います。



試乗したZ・ガソリンは、FF／4WDともに車重が2tを超える。このため動力性能については正直なところ過度な期待はしていなかった。しかし、アクセルを踏み込むと懸念は吹き飛んだ。エンジンは非常に活発、それでいて走りに重厚感がある。数値上のスペックは決して高いエンジンではないが、車群をリードするに十分な低速トルクを持ち、中域から上も軽快に回る。ただし車全体の挙動はとても紳士的だ。元気なハートを持っているにも関わらず決してしゃがまないし、騒が

「ないものがない」 国産ミニバンの最高峰

—インプレッション—

札幌トヨタ月寒支店を訪れたのは、発売開始から一ヶ月ほど経った頃。お客様の反応を伺うと、なかなか反響が大きく、特に週末の来店者は非常に多いとのこと。アルファード／ヴェルファイアからの乗り換えを検討されている方もいれば、乗用タイプやSUVタイプの輸入車から乗り換えようという方もおられるそうで、その人気のほどがうかがえる。「ミニバンブームは去り、今はSUV全盛」という意見もある。しかしミニバンが社会に認知され、あつて当然のカテゴリーに変化しただけのこと。その最高峰がアルファード／ヴェルファイアであると誰もが認識しているからこそ、新型の登場で多くのドライバーが沸き立っているのである。

ない。あくまでも紳士然としており、それが高級感を醸し出す。ハイブリッド車やヴェルファイアのガソリンターボであればまた走りの味が異なるのだから、おそらくは高級感あふれるマナーに違いはないだろう。

残念ながらワインディングは試せず、あくまでも街中でのコーナリングについての印象ではあるが、ステアリング操作への追従性が素晴らしい。切った分だけ鼻先がすつと向きを変え、極端なアンダーステアにならずにボディがついてくる。スポーツカー並みとは言わないがこの素直な挙動には驚かされた。というのも、重量級であることはもちろん、全高が1.9m以上あるからだ。重心が高ければ高いほどコーナリング時の車の挙動は不安定になるのが定説。これは高剛性ボディの恩恵が最も感じられるシーンである。

また静粛性は本当に素晴らしい。徹底的に遮音にこだわった結果、走行中、耳に入ってくるのはエアコンの作動音のみ。ロードノイズも極力抑えられている。ファミリーで出かける際にはドライバーとサードシートの間でも会話が弾むことだろう。そして静粛性を高めたということは、内装などからきしみが発生しないという自信の裏返しでもある。事実試乗中にきしみが音が出ることはなく、先進的なコクピットが車というより宇宙船をイメージさせるため、なんとも不思議な感覚になる。これは過去にレクサス車に乗った時と同じものだ。

今後街中で見かける機会が多くなるであろう新型アルファード／ヴェルファイア。なぜこれほど人気が高いのか、なぜ売れるのか。それは試乗してみれば一目瞭然、非常に良くできたクルマだからという一語に尽きる。ミニバンに何を求めるかは人それぞれだが、控えめに言ってもアルファード／ヴェルファイアには「ないものがない」。国産ミニバンの最高峰に君臨するというのはそういうことなのだと思う。